

各位

## 小・中・高等学校における技術教育の充実についての賛同署名のお願い

日本産業技術教育学会会長（福岡教育大学教育学部教授）古川 稔

### 趣旨

多くの先進諸国では、ものづくりなどの体験的な活動を通じた技術教育が小学校から高等学校までの普通教育の教育課程に位置づけられ、技術的素養の育成が保障されています。例えば、イギリスでは5-16歳において一貫した技術教育（デザインと技術、およびコンピューティング）を教科として実施しており、ものづくり活動を通じた創造的活動力の育成が重視されています。その他にもアメリカやカナダ、ドイツ、フィンランド等の多くの国々において、小学校から技術教育が実施されています。しかし、我が国における技術教育は実質的には中学校3年間で平均週1時間にも満たない授業でしか行われていません。

第2期教育振興基本計画においては、「社会を生き抜く力の養成」にESD（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）の推進が述べられています。ESDでは、環境、エネルギー、防災等の学習を通して、環境、経済、社会の側面から総合的に取り組むことが重視されています。現在、中学校技術・家庭科技術分野で行われている学習は、技術的な価値創造に取り組む態度、設計・創造工夫する力、技術を評価する力、技術的な倫理観、巧緻性、職業・仕事への意欲を育み、よりよい社会を築き上げていく力を育成するものです。まさにESDの根幹をなす学習といえます。我が国に限られた資源の中で新しいものを生み出し、持続可能な発展を続けていくためには、小学校から高等学校まで一貫した技術教育が必要であると考えます。

以上のことから、普通教育における技術教育の充実と推進に関して、文部科学大臣へ要望する次の3点にご賛同いただき、署名をお願いするものです。

### 要望事項

#### I. 小学校における技術教育の実施

小学校の教育課程において、全ての児童に対し技術的素養を育成する技術教育の学習機会を保障すること。

#### II. 中学校における技術教育の授業時数の増加

中学校技術・家庭科技術分野の授業時数を週1時間以上(合計105時間以上)確保すること。

#### III. 高等学校における技術教育の実施

普通高校の教育課程において、全ての生徒に対し技術的素養を育成する技術教育の学習機会を保障すること。

### 賛同署名

小学校及び高等学校での技術教育の実施と中学校での技術教育の授業時数増に賛同します。

| 氏名 | 住所 | 所属（職業） |
|----|----|--------|
|    |    |        |
|    |    |        |
|    |    |        |
|    |    |        |
|    |    |        |

問い合わせ先・提出先：福岡県宗像市赤間文教町1-1 福岡教育大学技術教育講座内 日本産業技術教育学会事務局  
TEL：0940-35-1403 FAX：0940-35-1706 E-mail：furukawm@fukuoka-edu.ac.jp

提出期限：平成26年11月末日